

科目名		授業形態		担当教員名			
生体計測装置学演習		演習		宮下 久美子・石川 倫子・南 貴子 木下 靖子			
時間数（単位数）		授業回数		年次		開講時期	
60 時間（2 単位）		30 回		1 年次		前期	
授業の目的・概要							
生理機能検査を通して、生体計測装置学の実際の使用方法・仕組みや構造を理解する。また、得られた結果をどのように評価すべきかを理解する。各項目ごとに臨床工学技士に必要な生理学的知識および医用工学的知識について講義・指導する。							
授業の到達目標							
様々な計測装置の特性を知り、臨床で必要な計測装置についての知識を修得する。さらに、具体的な測定データを分析することで、臨床で遭遇しうる病態について考察できる力を身に付ける。							
授業計画							
回	内容			回	内容		
1	オリエンテーション			16	脳波(2)測定		
2				17	脳波(3)波形の解析		
3	心電図(1)装置の原理			18	脳波(4)病態の理解とレポート指導		
4	心電図(2)測定手技の習得			19	筋電図(1)装置の原理		
5	心電図(3)波形の解析			20	筋電図(2)測定		
6	心電図(4)病態の理解とレポート指導			21	筋電図(3)波形の解析		
7	心臓超音波(1)循環器の生理			22	筋電図(4)病態の理解とレポート指導		
8				23	腹部超音波(1)装置の原理・測定モードの理解		
9	心臓超音波(2)装置の原理・測定モード・走査手技の習得			24	腹部超音波(2)走査手技の習得		
10	心臓超音波(3)画像の解析・病態の理解			25			
11	モニタ心電図(1)測定手技の習得			26	腹部超音波(3)画像の解析・病態の理解とレポート指導		
12	モニタ心電図(2)病態の理解			27	スパイロメータ(1)装置の原理・病態の理解		
13	血圧(1)測定			28	スパイロメータ(2)測定手技の習得・波形の解析		
14	血圧(2)病態の理解			29	レポート作成・指導		
15	脳波(1)装置の原理			30	演習のまとめ		
成績の評価法と基準							
種別	割合	評価基準・その他備考					
定期試験							
レポート	80%	演習内容についての理解度やレポート提出状況などを総合的に評価する。					
小テスト							
平常点	20%	演習に取り組む姿勢や出席状況などを総合的に評価する。					
その他							
自由記載							
教科書							
書名	著者・編集者名			出版社名			
生理機能検査学（臨床検査学講座）	東條 尚子			医歯薬出版			
自由記載							
参考文献							
書名	著者・編集者名			出版社名			
みえる人体	佐藤 達夫			南江堂			
自由記載							
備考							
助手：							